

平成27年度市町村提案事業採択状況

市町村名	事業名	事業主体	対象事業費 (千円)	補助要望額 (千円)	事業の概要		事業評価
白石市	大阪夏の陣凱旋・阿梅姫入城400年記念事業	白石市	14,213	7,106	目的	これまでも市のシンボルである白石城や、郷土の英雄白石城主片倉小十郎公を活かしたまちづくりに取り組んできたが、平成27年度は、大阪夏の陣、また片倉小十郎公と真田幸村公の繋がりの証である阿梅姫の白石城入城から400年、そして白石城開門20周年という節目の年であることから、「大阪夏の陣凱旋・阿梅姫入城400年記念事業」を展開し、AR（拡張現実）アプリケーション等により歴史資源をよりリアルに体感できる仕組みをつくることにより新たな観光客の誘客を目指すとともに、NHK大河ドラマ「真田丸」が全国放送されるこの好機を捕らえ、これらの取り組みを一過性のもので終わらせず、今後も継続していくまちづくりの基幹となるよう事業展開を図るもの。さらに、市民が白石の歴史を再認識することで「ふるさと白石」の誇りを創出する機会とする。	本事業は、白石市ならではの地域資源である片倉小十郎や阿梅姫、白石城などの歴史資源を活用した地域の独自性を有した事業と言えるほか、最新のデジタル技術を導入することにより、歴史ファンだけではなく、若年層の新たな観光客の獲得も図るものであることから独自の創意工夫が認められ、また、他市町村の参考となりうる先進性・モデル性を有していると言える。また、平成27年度は、大阪夏の陣から400年・白石城復元から20年という節目の年であることから、本事業実施の必要性・緊急性を有していると言える。さらに、宮城の将来ビジョンの取組「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」に合致しており、県の政策との整合性も図られている。以上のことから、本事業は市町村提案事業の主旨に合致した事業と認められる。
					内容	白石城などの歴史資源と最新デジタル技術を融合したAR（拡張現実）アプリケーション開発及びポリゴンデータを作成し、ARにより歴史資源をよりリアルに体感できる仕組みをつくる。 ・片倉小十郎重長や阿梅姫が過ごした白石城本丸内の疑似体験ができるARアプリケーション開発・配付 ・キャラクター出現アプリケーション開発・配付 ・アプリケーションを利用しないユーザーでもARが体験できる映像作品の作成・白石城歴史探訪ミュージアムにおける公開	
加美町	地域資源活用による商店街にぎわいづくりまちづくり事業	加美町	6,762	3,381	目的	加美町の商店街は地域住民の商品供給だけでなく、社会・経済・文化活動の中心機能の役割を果たしてきたが、大型店の進出等の影響による後継者不足で空き店舗が増加し、町中心部の活力が相対的に低下しており、町・商店会・商工会では集客増加のため様々なイベントを開催してきたが、一時的な集客となり、継続的に町・商店街の活性化に繋がれない状況にある。そこで、一昨年度から「商店街にぎわいづくり委員会」や「商店街活性化検討委員会」を設置し、町民自らの知恵と工夫による商店街の繁栄と賑わいを目指した活動を継続して取り組み、商店街のマップづくりや店主のワークショップの開催、若い世代を商店に引き込むための行事の開催など、積極的にPR活動するソフト事業を展開してきた。そのような中で、商店街の拠点整備、蔵や様々な匠人の活用、回遊するためのランドデザインを含めた事業が急務であると提言されていることから、現在町民が主体となって取り組んでいる総合計画や美しいまちなみづくり計画の策定、観光まちづくり協会の設立と併せ、まちづくりを検討している町民が方向性をついて検討することで、商店街の活性化、ひいては町の活性化を図る。	加美町は、これまでも住民が主体となり商店街の活性化による町づくりに取り組んでいたが、平成27年度には、ここで検討された意見を中心に基本計画の策定を行うものであり、本事業は、住民の意向・要望を的確に反映した事業と認められるほか、平成24年度から実施してきた「美しいまちなみづくり計画の策定」の結果も踏まえた発展的内容となっている。また、本事業は、基本計画の策定や担い手の育成事業を通して、単に住民が主体となるだけでなく、住民のコミュニティビジネスを生み出すための能力の啓発を町が支援する取り組みであり、先進性・モデル性及び独自の創意・工夫があると認められる。さらに、宮城の将来ビジョンの取組「産業競争力の強化に向けた条件整備」及び「住民参画型の社会資本整備や良好な景観の形成」に合致していることから、県の政策との整合性も図られている。以上のことから、本事業は市町村提案事業の主旨に合致した事業と認められる。
					内容	・中新田地区商店街活性化基本計画策定委員会の設置 中新田地区商店街にぎわいづくり委員会（平成24～26年度）で検討してきた意見を中心に、美しいまちなみづくり検討委員会など、まちづくりに関係する委員会でもとめられたことを踏まえ、拠点の整備、蔵や様々な匠人の活用、回遊により美しいまちなみづくりなどの整備を目的としたランドデザインを描く。 ・宮崎地区商店街活性化拠点づくり担い手育成 平成26年度に完成予定の「宮崎地区商店街活性化基本計画」を踏まえ、コミュニティビジネスや公益的活動を行う個人・団体、出店者、出品者、拠点を活用するグループ、さらには拠点施設全般を管理運営する組織、それらの支援者など、多様な主体の関わりによる運営マネジメント体勢の確立、人材の発掘・育成、運営のための組織体制作りを図る。	
南三陸町	南三陸町タウンプロモーション事業	南三陸町	8,000	4,000	目的	即効性のある地域活性化事業の一環として、震災直後から官民協働による交流促進事業並びに受入体勢整備事業を推進してきたが、交流による効果を実証し、地域再生に繋げるため、新規参入となる訪日外国人誘致を含めた国内外へのプロモーションを強化し、ターゲットの拡大を図る。	国内外の南三陸ファンに向け、食や人にスポットを当てたタウンプロモーションを各地で展開するという本事業は、風化とともに交流人口の減少が危惧される南三陸町において、緊急性・必要性が高い事業であると言える。また、一般観光が馴染まない被災地での交流において、被災地だからこそ提供しうる「教育・文化・人」を活かした防災プログラムを、社会貢献としてではなく、地域経済の活性化を目的とし、プログラム（商品）化を行うという点で地域の独自性が認められるほか、他の被災市町の参考になりうるものであり、先進性・モデル性が認められる。さらに、宮城の将来ビジョンの取組「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」や宮城県震災復興計画における「国内外からの観光客誘致」に合致しており、県の政策との整合性も図られている。以上のことから、本事業は市町村提案事業の主旨に合致した事業と認められる。
					内容	・主要都市部におけるタウンプロモーション事業 国内外の南三陸ファンに向け、食や人にスポットをあてた南三陸らしい交流プロモーションを行う。 ・交流受入体勢整備事業 受け皿となる地域内の人材育成、組織育成、マニュアル化を実施。	
計			28,975	14,487			